

東京2020オリンピック・パラリンピックへ

文研世論調査で探る 東京2020への期待と意識

NHK放送文化研究所 上級研究員

鶴島 瑞穂

調査の概要

2020年東京オリンピック・パラリンピックへの関心や期待、意見などを時系列で調査し、オリンピック開催にともなう人々の意識や価値観とその変化を明らかにする。

- ・ 調査日 2016年10月8日(土)～10月16日(日)
- ・ 調査相手 全国20歳以上の男女 3,600人(12人×300地点)
住民基本台帳から層化無作為2段抽出
- ・ 調査方法 配付回収法
- ・ 有効数(率) 2,524人(70.1%)

本日の報告 <目次>

1. 2016年リオデジャネイロオリンピック・パラリンピックの見られ方

- ① 視聴頻度
- ② 視聴メディア、視聴番組
- ③ 視聴場所、放送局のインターネットサービス利用

2. 2020年東京オリンピック・パラリンピックに関する意識

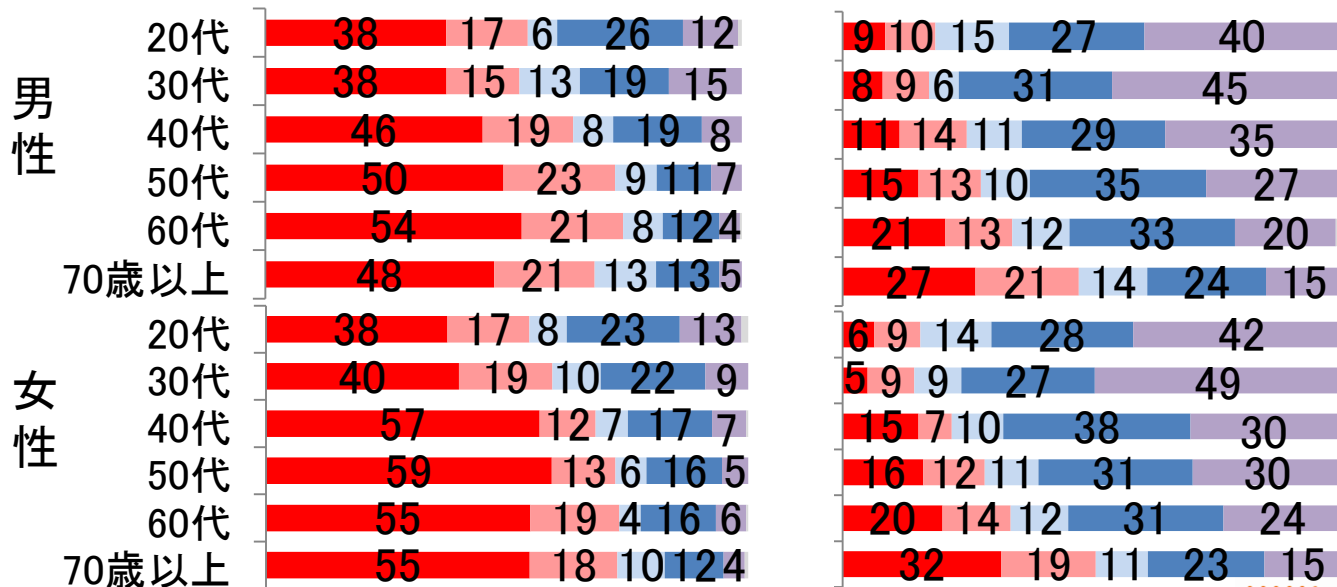
- ① 開催への評価、関心度、会場での観戦意向
- ② 開催にともなう期待、不安
- ③ オリンピック・パラリンピックに関する意見
- ④ ボランティア参加欲求度、現在の関心事

1. 2016年リオデジャネイロ

オリンピック・パラリンピックの見られ方

【2016年リオ五輪 視聴頻度】

「ほぼ毎日」は、オリンピック 49%、パラリンピック 17%



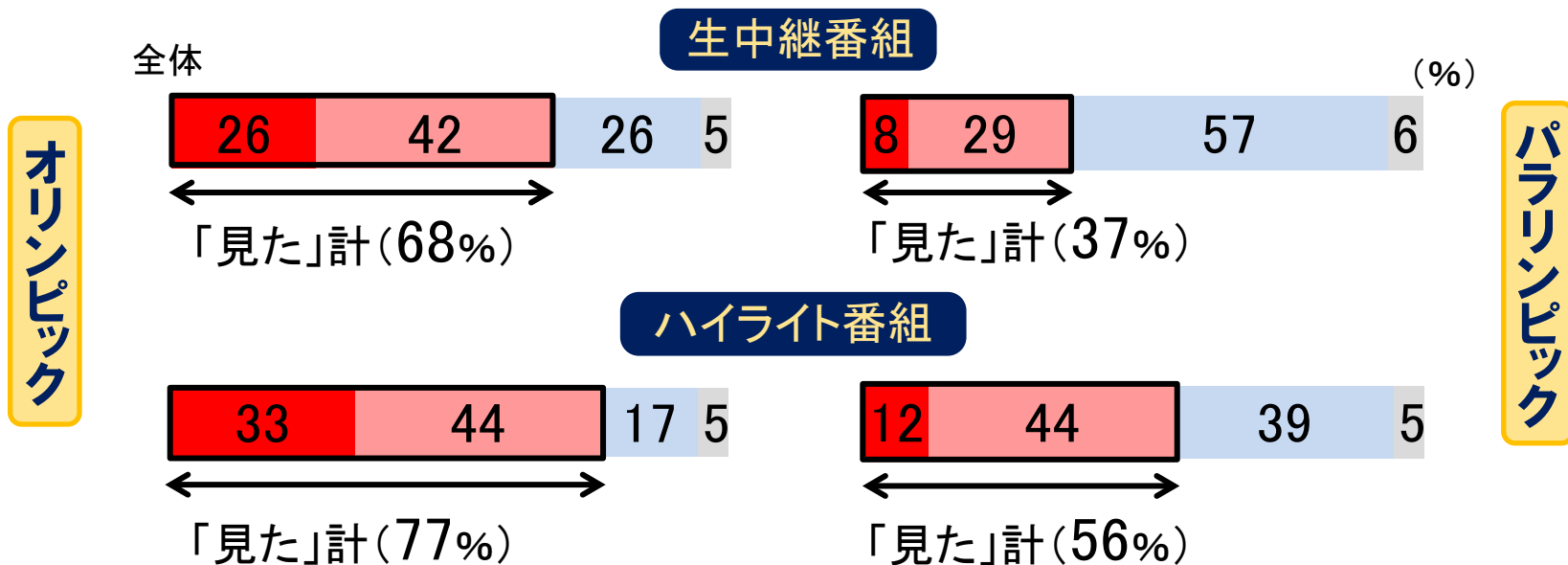
オリンピック

パラリンピック

【2016年リオ五輪 テレビ視聴番組】

オリンピックの生中継を「見た」人は7割、
パラリンピックのハイライトを「見た」人は半数以上

■ よく見た ■ ときどき見た ■ ほとんど・まったく見なかった ■ 無回答



【2016年リオ五輪 インターネット視聴番組】

生中継・ハイライトとも男性若・中年層で「見た」人の割合が高め

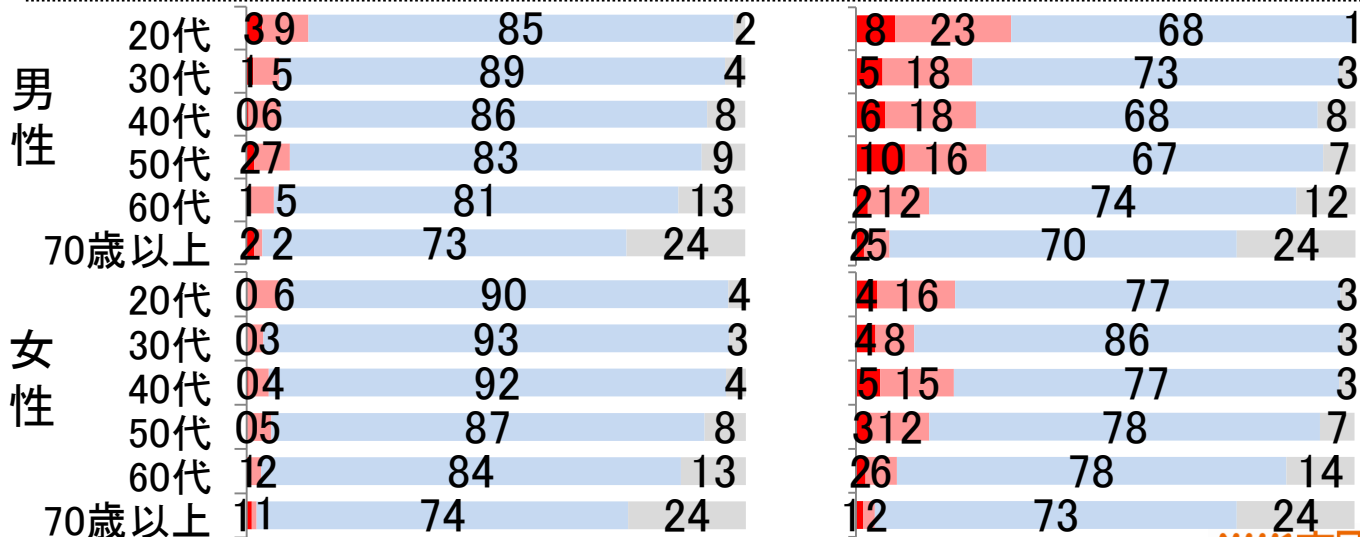
生中継番組

ハイライト番組

■ よく見た ■ ときどき見た ■ ほとんど・まったく見なかった ■ 無回答

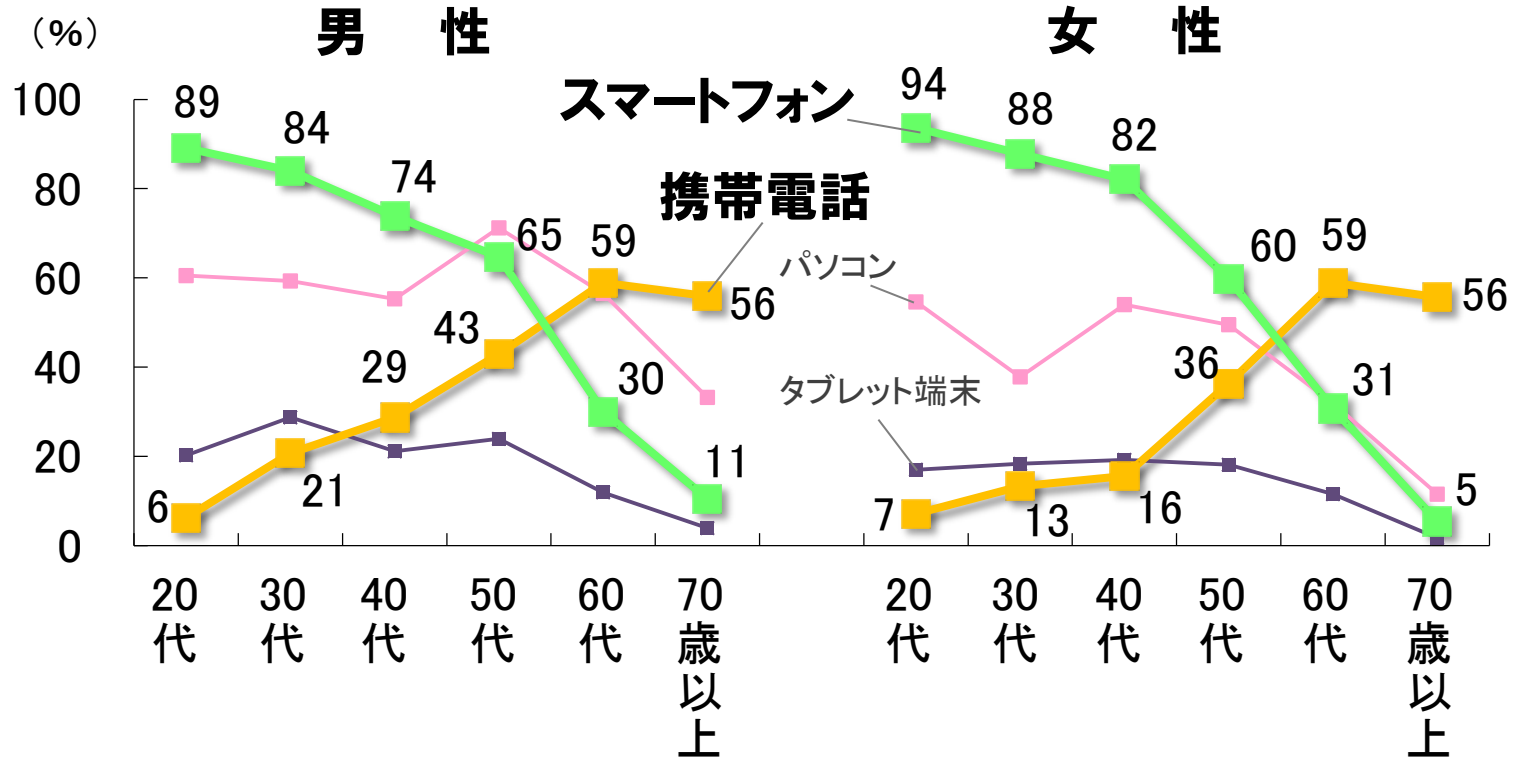


オリンピック



【インターネット利用機器】

男女60代以上では「携帯電話」が「スマートフォン」を上回る



【2016年リオ五輪 視聴場所】

「自宅」が大多数だが、
「通勤・通学の途中」も男性20～50代で一定数

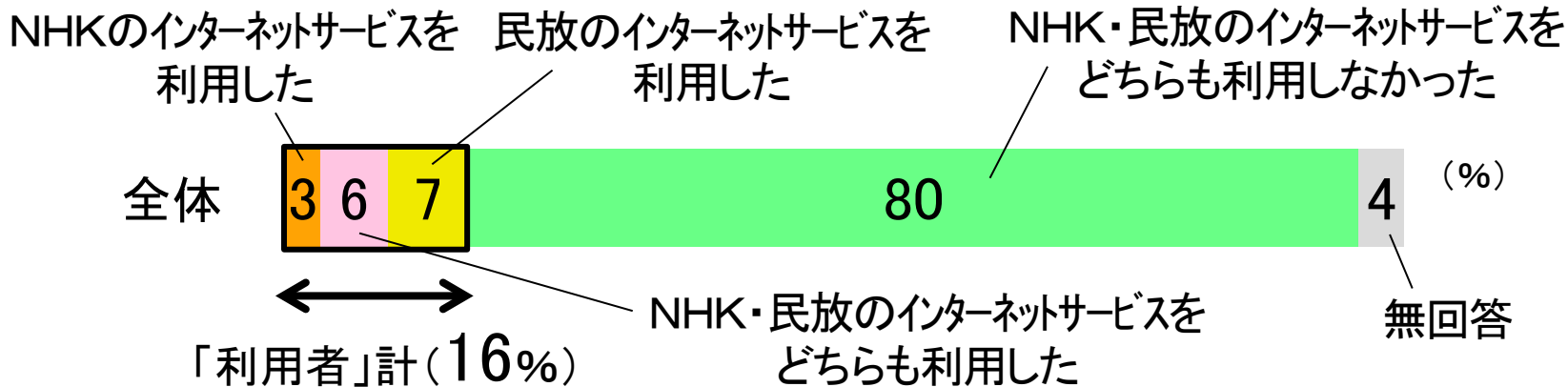
(%)

	全体 (複数回答)	男						女					
		20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上	20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上
自宅	93	84	81	89	96	93	98	92	91	91	95	97	96
職場	14	19	25	22	25	17	5	19	21	12	20	5	0
外出先	9	12	14	10	9	8	5	8	10	12	14	7	4
通勤・通学の途中	7	13	17	15	13	2	1	13	7	7	7	2	0
放送や映像は見なかった	4	9	8	6	3	1	2	4	5	5	3	3	3
パブリックビューイング会場	0	2	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0
その他	1	0	1	1	2	2	2	2	0	1	1	0	2

は全体と比べて統計的に高い層であることを示す

【2016年リオ五輪 放送局のインターネットサービス利用者】

インターネットサービス利用者は、NHK・民放合わせて 16%



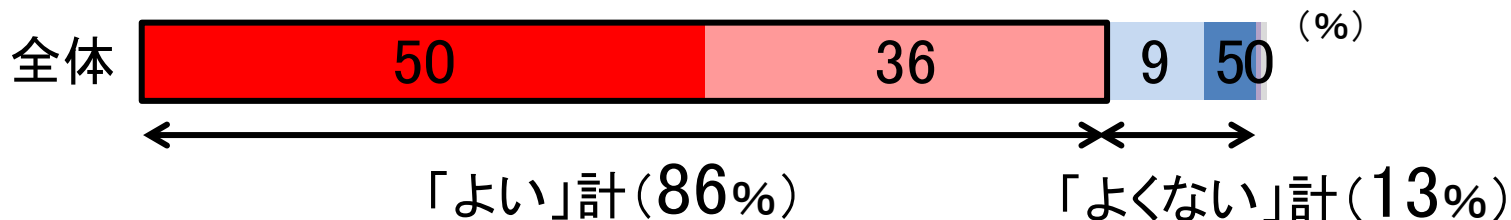
2. 2020年東京

オリンピック・パラリンピックに関する意識

【2020年東京五輪 東京が開催都市になることへの評価】

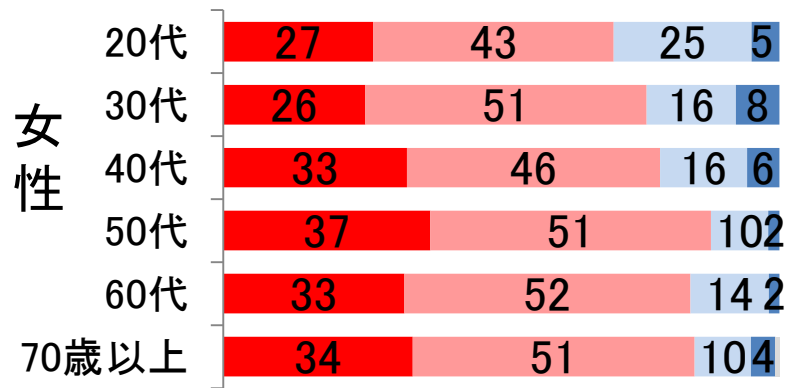
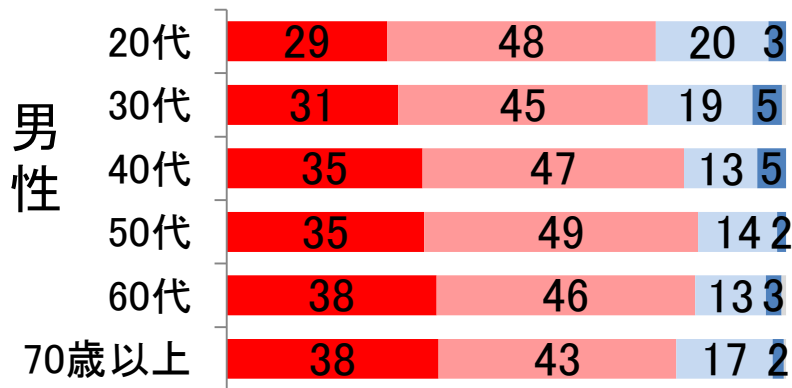
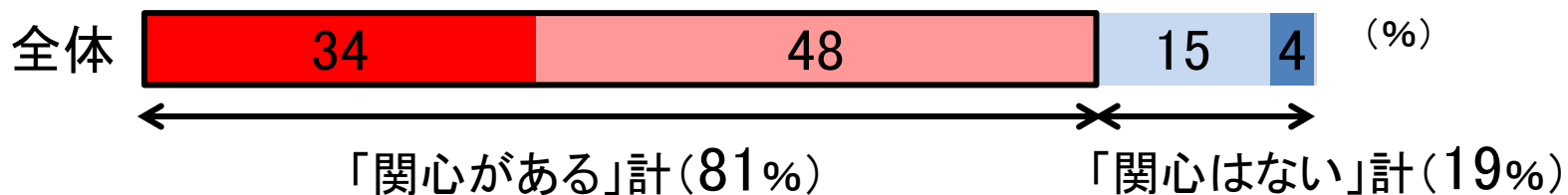
全ての年層で8割以上が「よい」と評価

■ よい ■ まあよい ■ あまりよくない ■ よくない ■ 知らなかった ■ 無回答



【2020年東京五輪 東京オリンピックへの関心度】 全ての年層で7割以上が「関心がある」

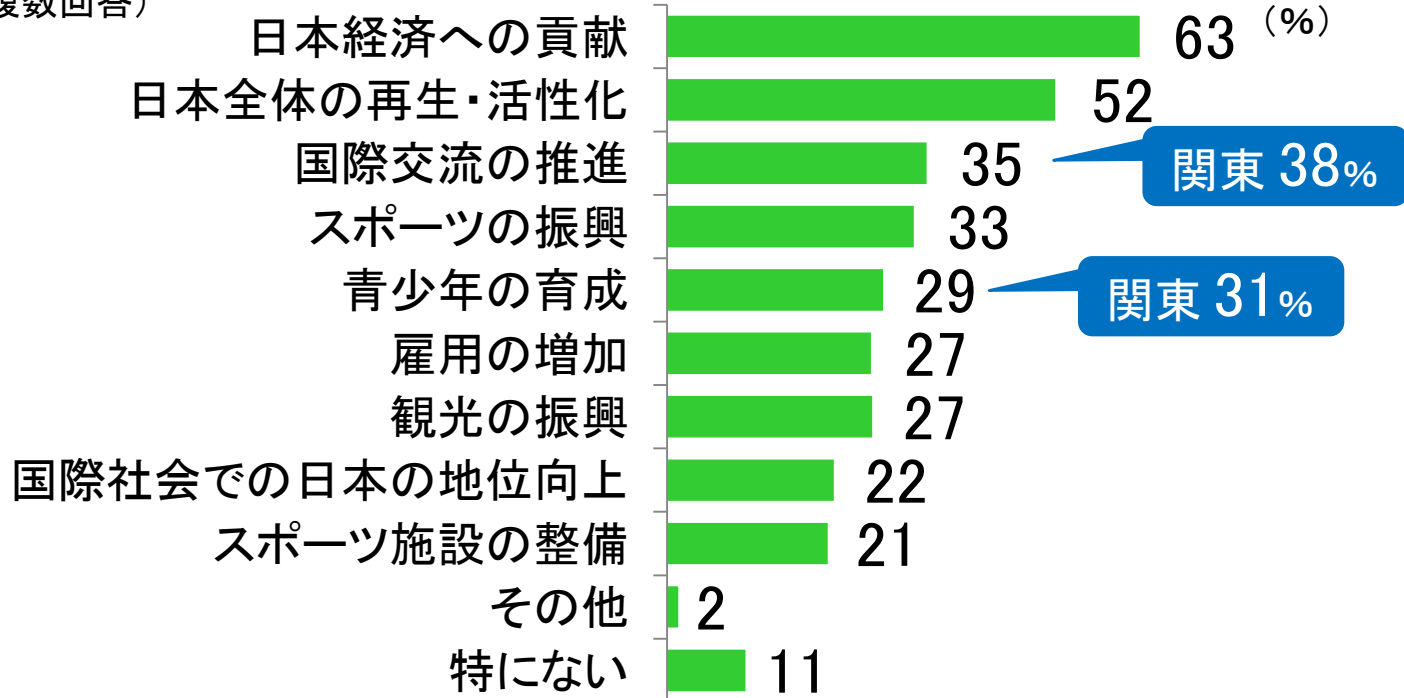
■ 大変関心がある ■ まあ関心がある ■ あまり関心はない ■ まったく関心はない ■ 無回答



【2020年東京五輪 東京開催で期待すること】

「日本経済への貢献」「日本全体の再生・活性化」が半数以上

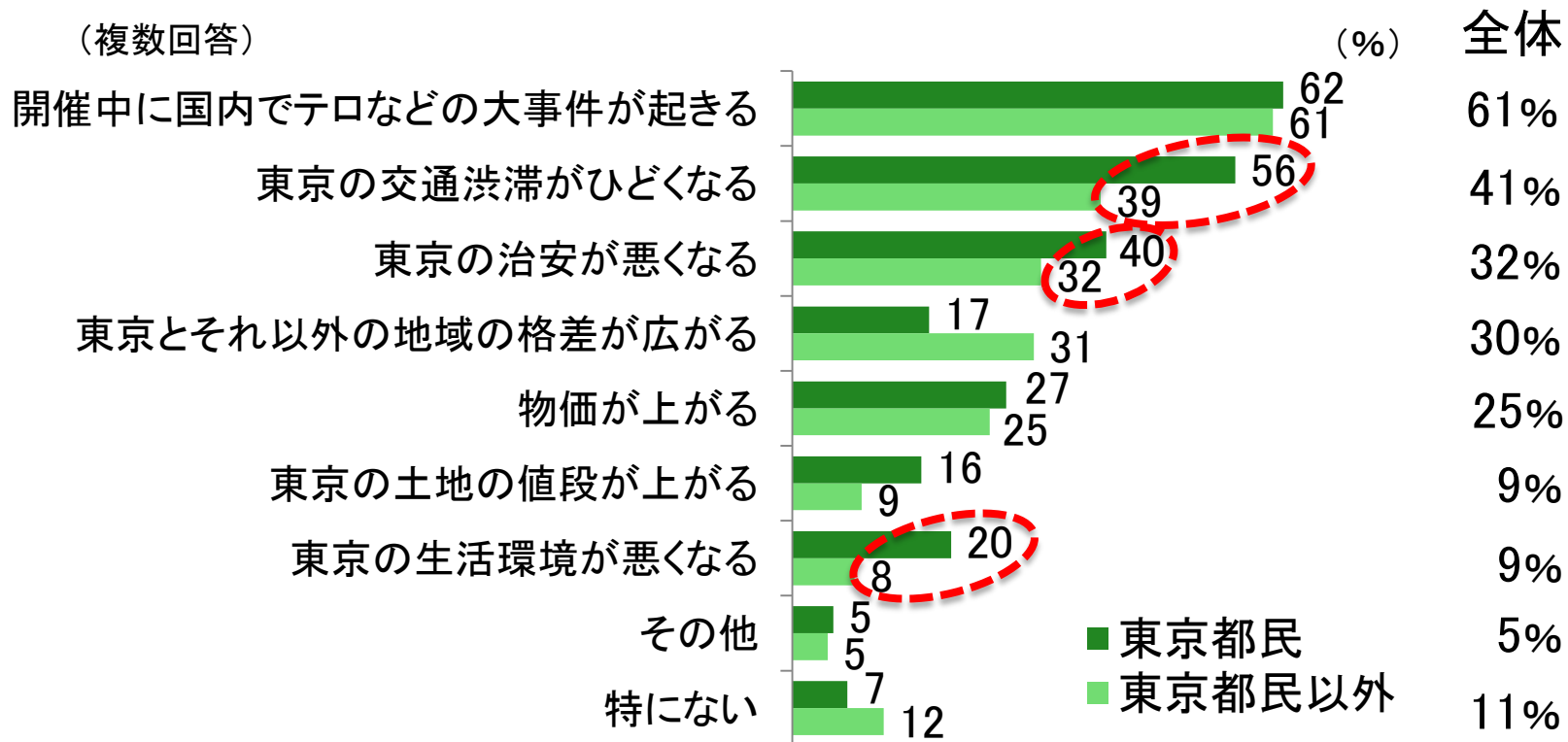
(複数回答)



【2020年東京五輪 東京開催で不安に思うこと】

「テロなどの大事件が起きる」が全体の6割で最も多い

(複数回答)



【2020年東京五輪 期待する放送サービス】

進化する放送技術 広がる可能性

- 高画質・高臨場感の
スーパーハイビジョン(4K・8K)
- 後からいつでも見ることができる
ライブストリーミング配信
- いつでもどこでも競技映像が見られる同時配信

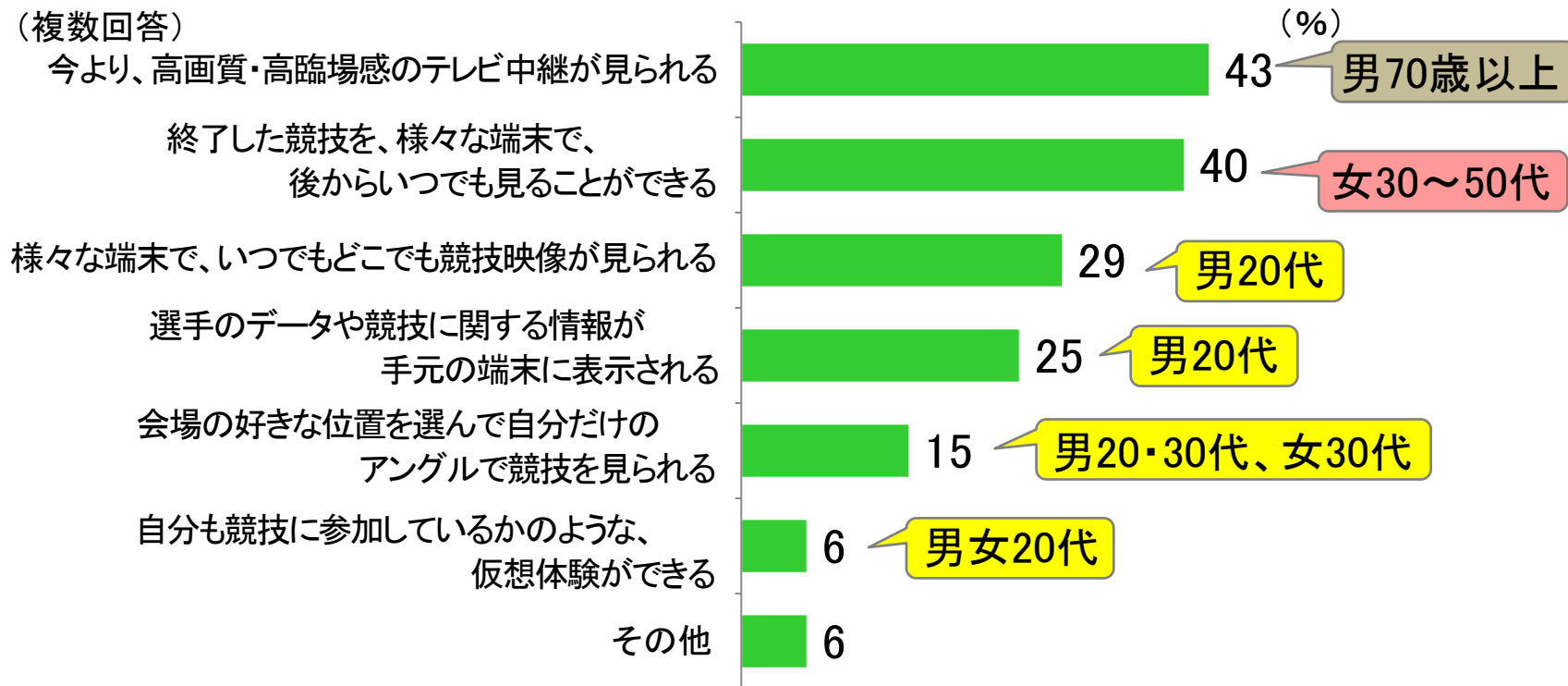


- 選手のデータや
競技情報などを手元の端末に発信
- 自分だけのアングルで
競技を見られる最先端技術
- 仮想体験ができる
バーチャル・リアリティ映像 など

【2020年東京五輪 期待する放送サービス】

「高画質・高臨場感」と「終了した競技を後から見られる」が上位

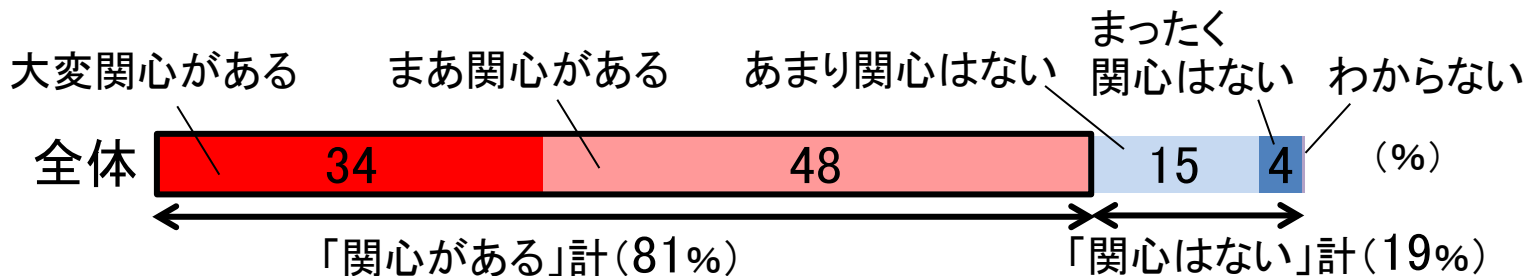
(複数回答)



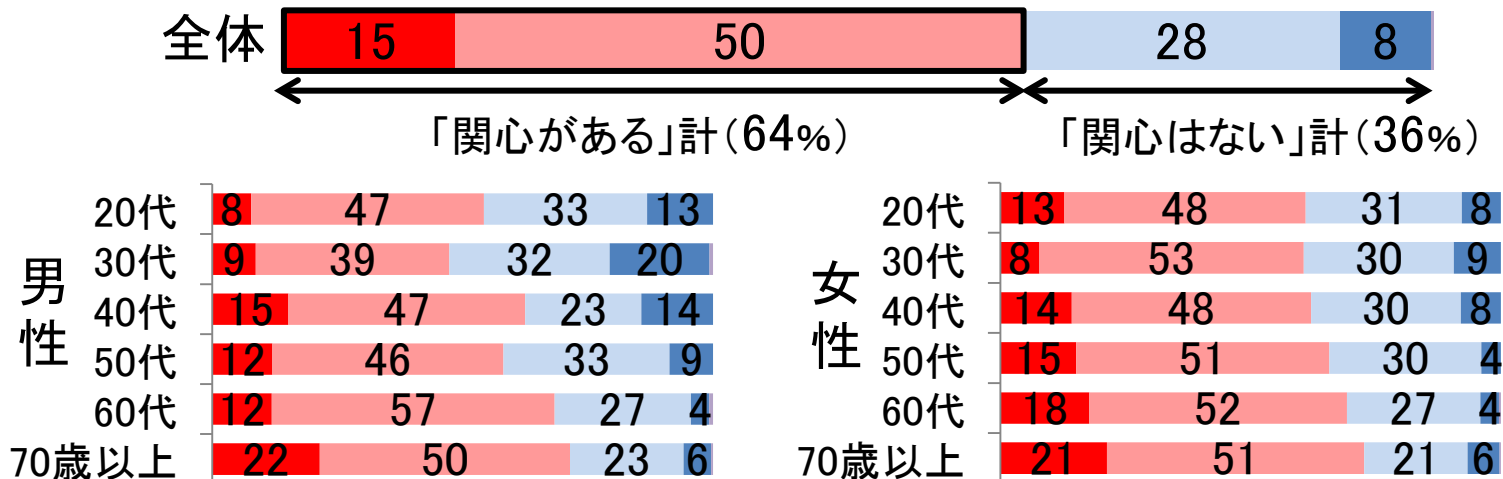
【2020年東京五輪 東京パラリンピックの関心度】

東京パラリンピックに「関心がある」64%

オリンピック
(再掲)



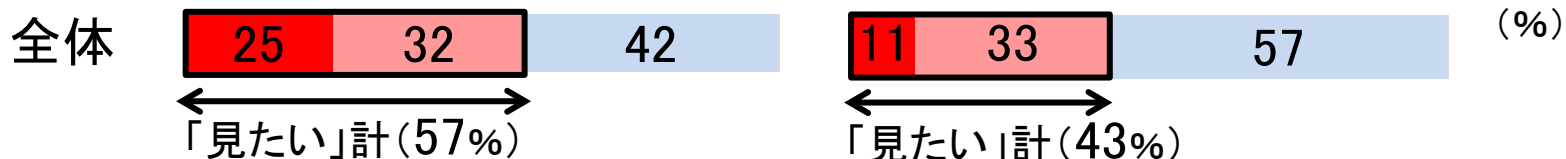
パラリンピック



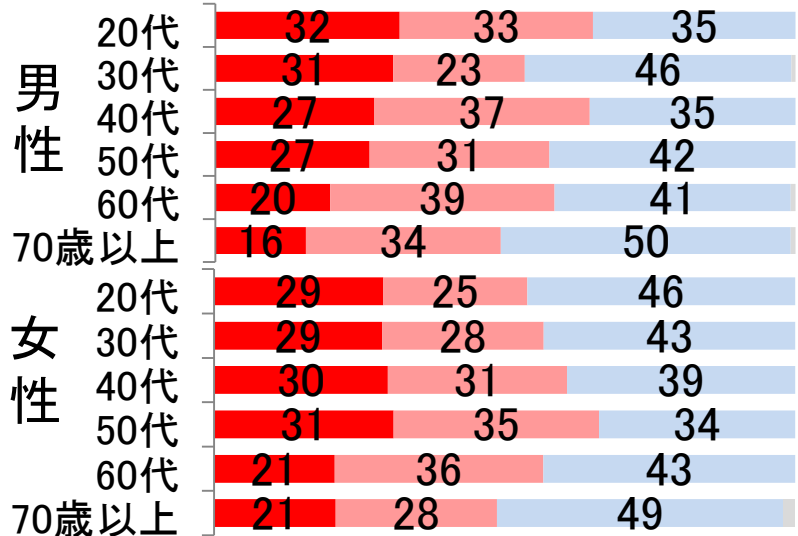
【2020年東京五輪 オリンピック・パラリンピックの観戦意向】

オリンピックは6割、パラリンピックは4割が会場での観戦意向あり

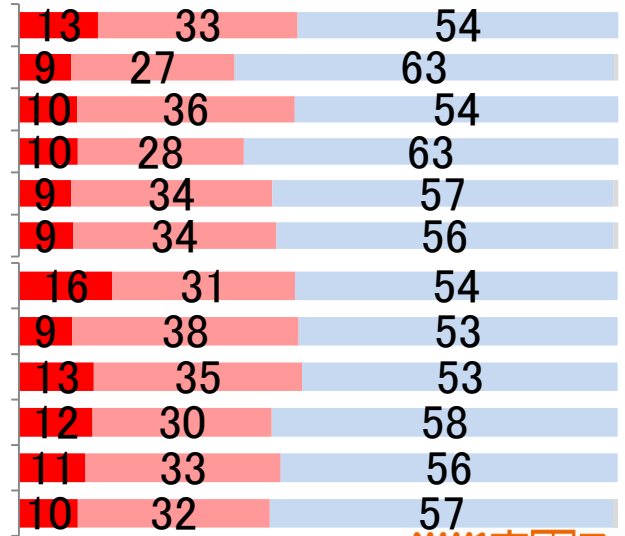
■ ぜひ見たいと思う ■ まあ見たいと思う ■ 特に見たいとは思わない ■ 無回答



オリンピック



パラリンピック



【2020年東京五輪 パラリンピックの伝えるべき側面】

パラリンピック 2つの側面とは？

障害者福祉の側面

- ・ パラリンピックの起源
1948年ロンドンオリンピック開会式と同日にイギリスの病院で行われた競技大会とされる
- ・ 初期の目的
リハビリの手段としてスポーツを導入することで患者の治療と社会復帰を促進する

スポーツの側面

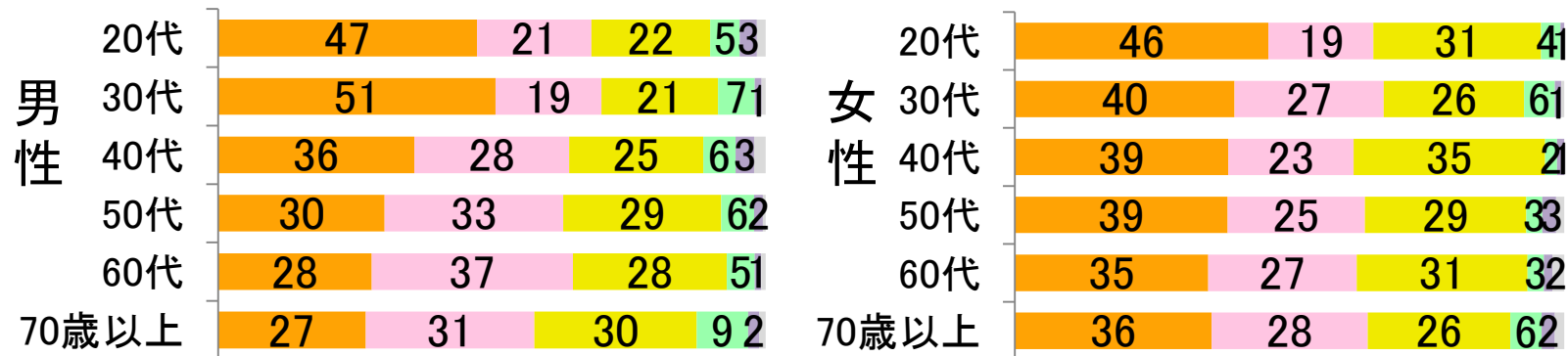
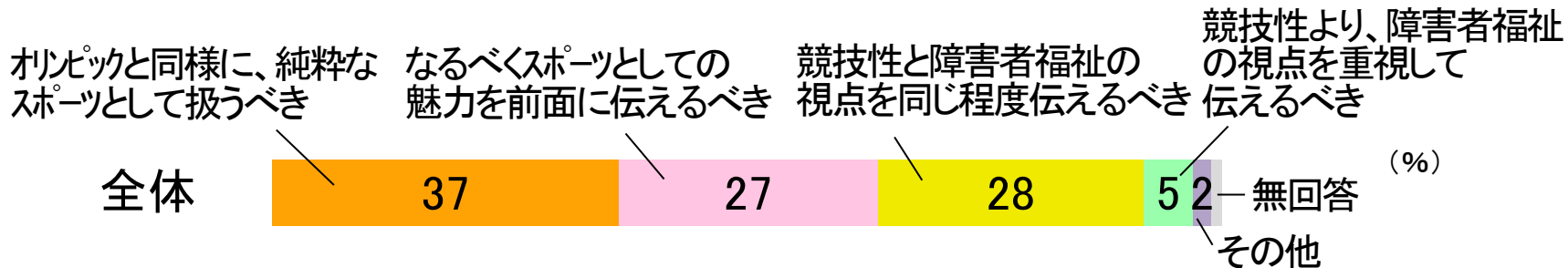
- ・ 競技としての性質
陸上競技や車いすテニス等でプロ選手が誕生し「障害者アスリート」という言葉も定着している
- ・ 競技性の高まり
福祉ではなく「スポーツ文化」としての理解と支援を求める声が強まっている

■上記を踏まえて、今回の調査ではパラリンピックをどのように伝えるべきかを尋ねた

- 1 オリンピックと同様に、純粹なスポーツとして扱うべき
- 2 なるべくスポーツとしての魅力を前面に伝えるべき
- 3 競技性と障害者福祉の視点を同じ程度伝えるべき
- 4 競技性より障害者福祉の視点を重視して伝えるべき

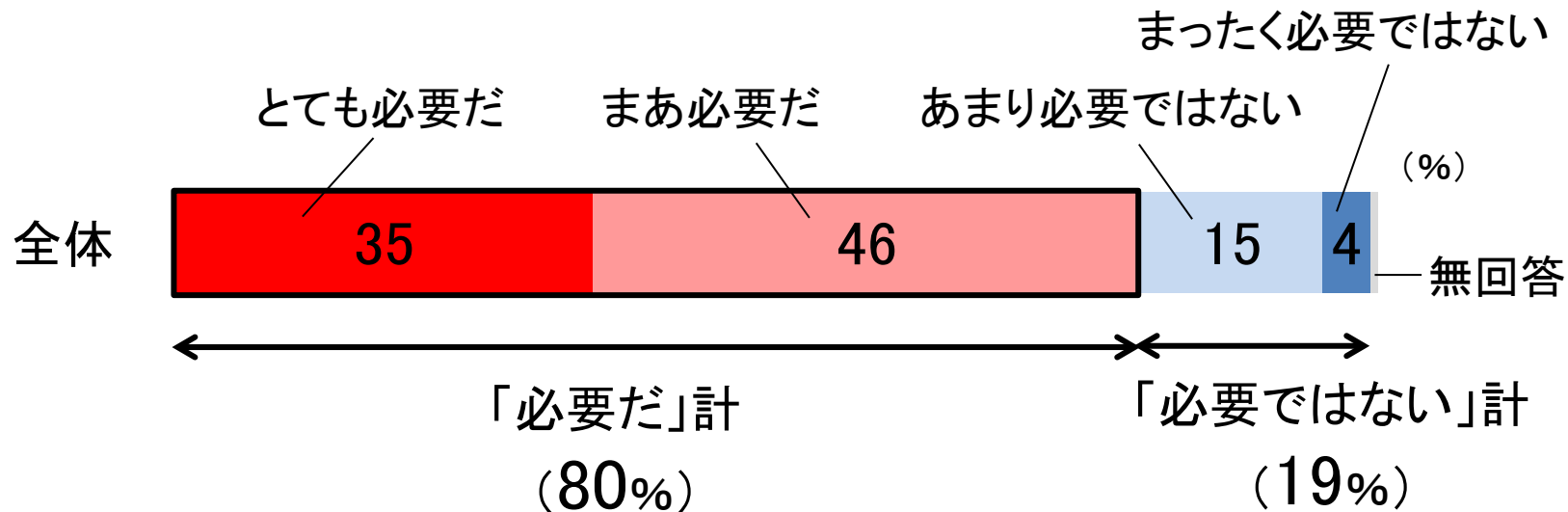
【2020年東京五輪 パラリンピックの伝えるべき側面】

パラリンピックの捉え方 「障害者福祉」より「スポーツ」



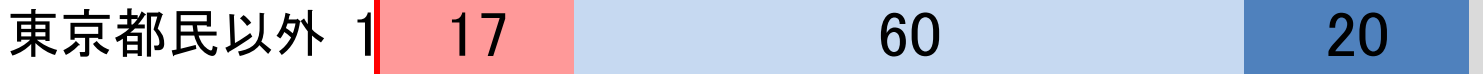
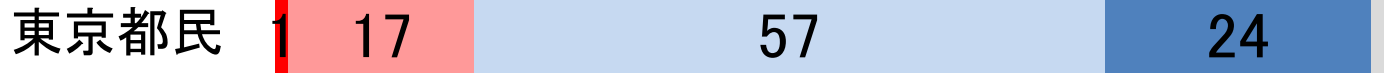
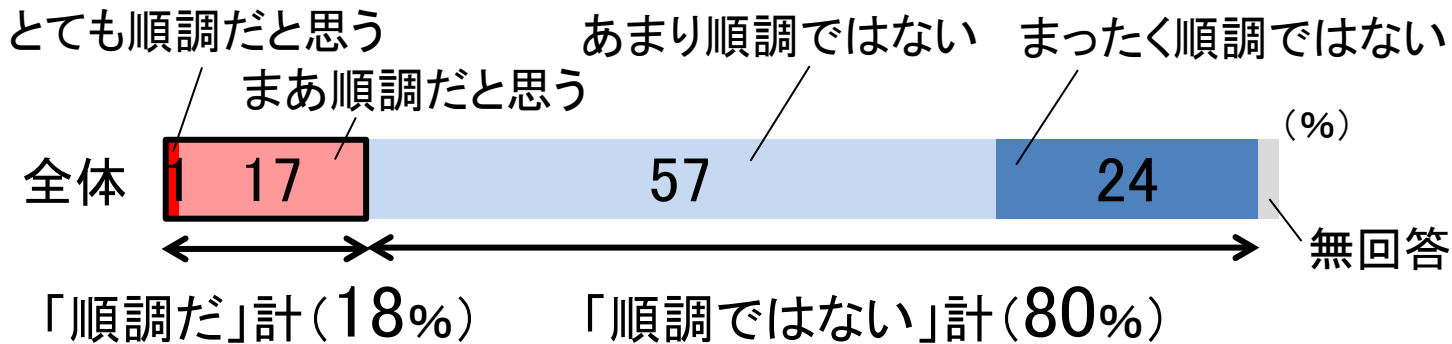
【2020年東京五輪 パラリンピック競技放送のルール解説】

全体の8割がルール解説は「必要」



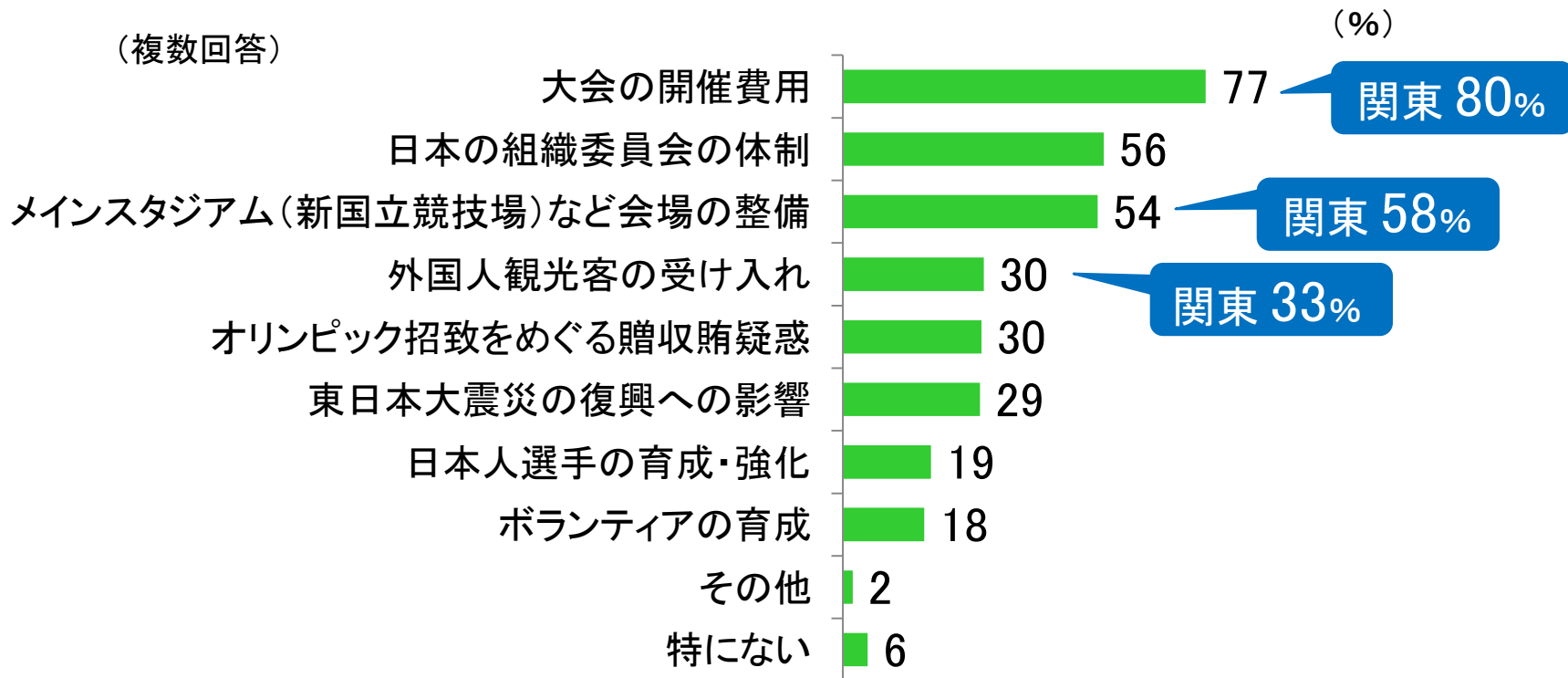
【2020年東京五輪 準備状況について】

東京都民、東京都民以外ともに8割の人が「順調ではない」



【2020年東京五輪 準備状況への不安】

全体の77%が「大会の開催費用」を不安視



【2020年東京五輪 ボランティア参加欲求度】

現段階で「参加したいと思う」人は 15%

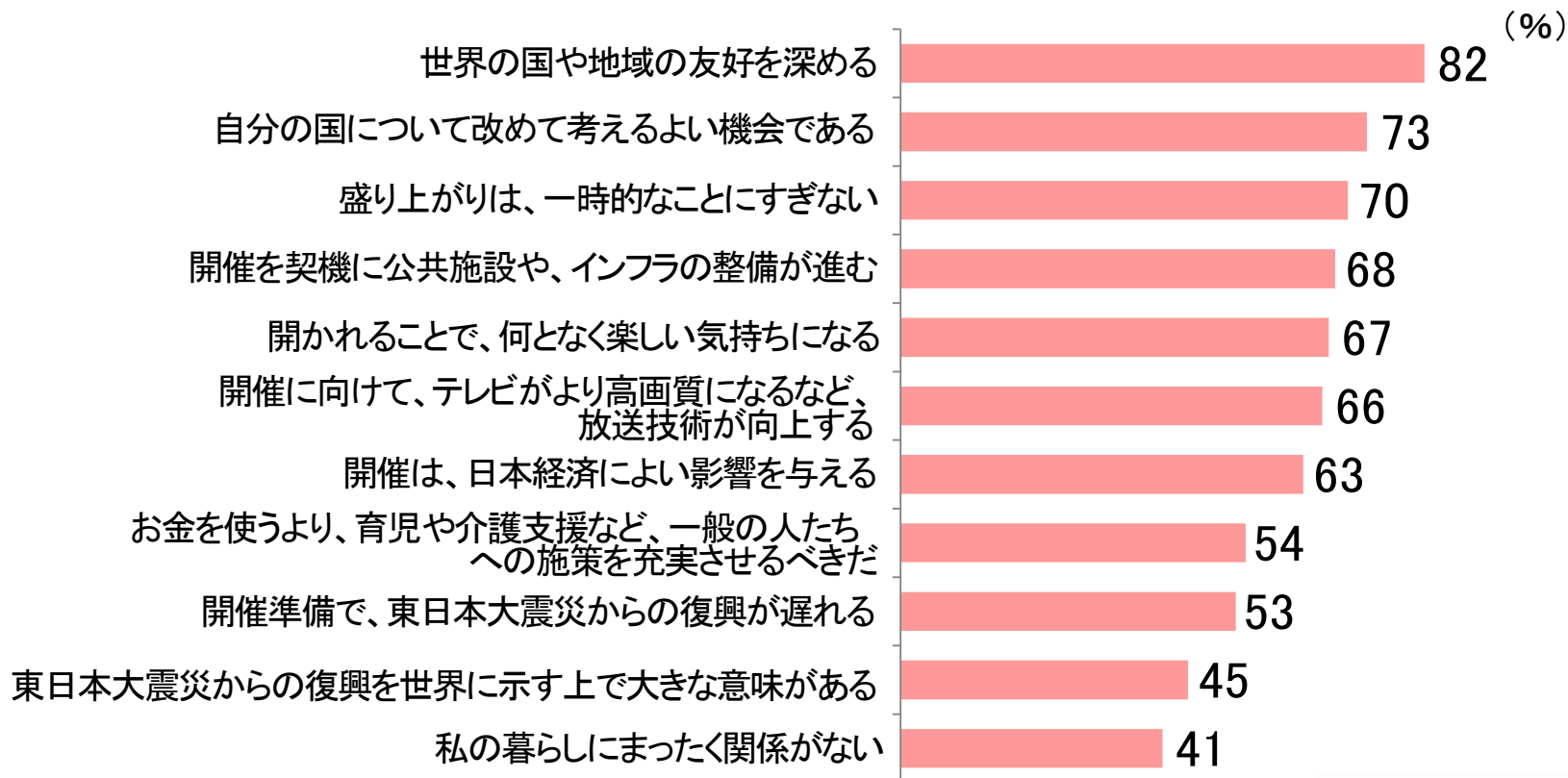
(%)

	全体	男						女						東京都民	東京都外民
		20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上	20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上		
参加したいと思う	15	23	18	16	14	14	9	18	13	18	21	14	6	24	14
参加したいと思わない	84	77	82	83	85	85	88	82	86	81	78	84	91	75	85

は全体と比べて統計的に高い層であることを示す

【2020年東京五輪 オリンピック・パラリンピックに関する意見】

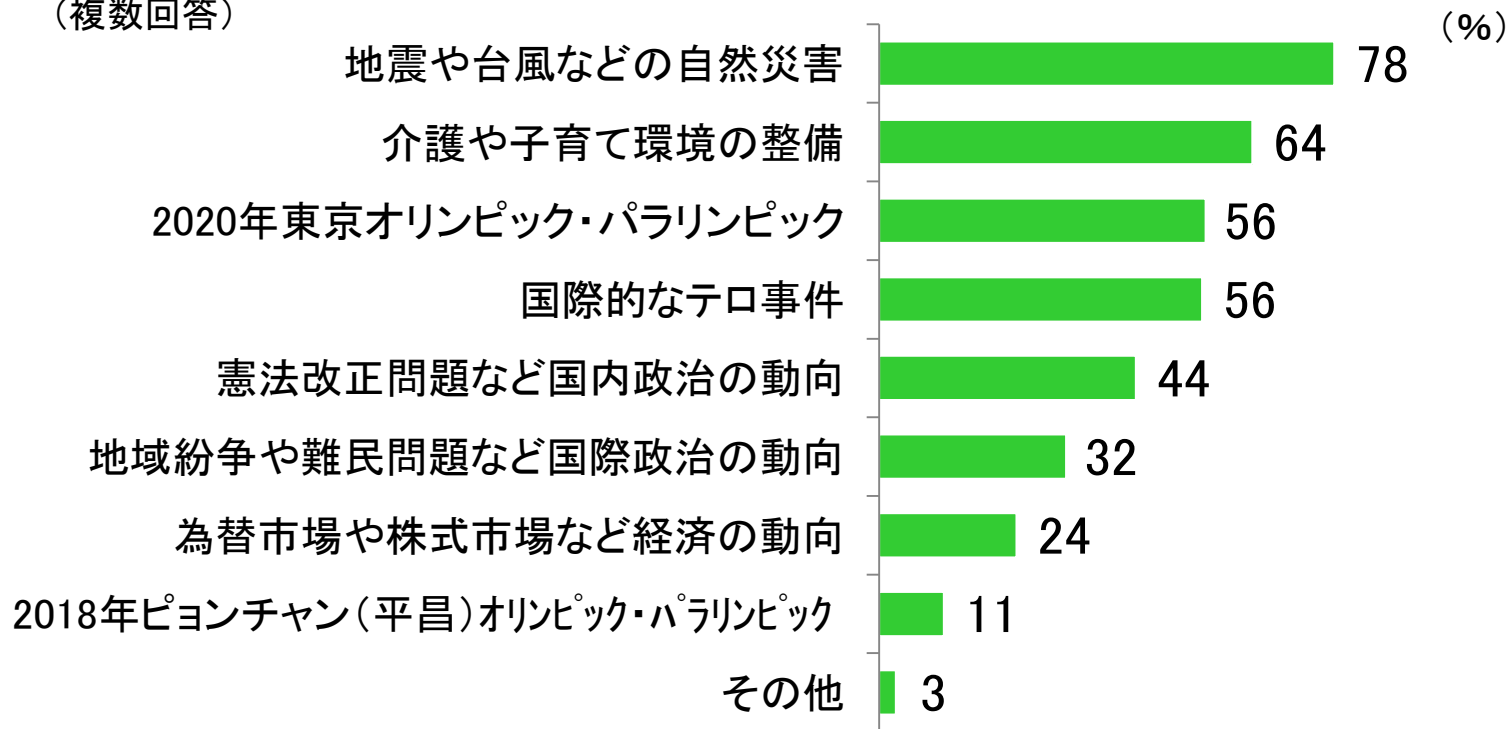
肯定的な意見が多いが、「盛り上がりは一時的」も



【一般的な価値観 現在の関心事】

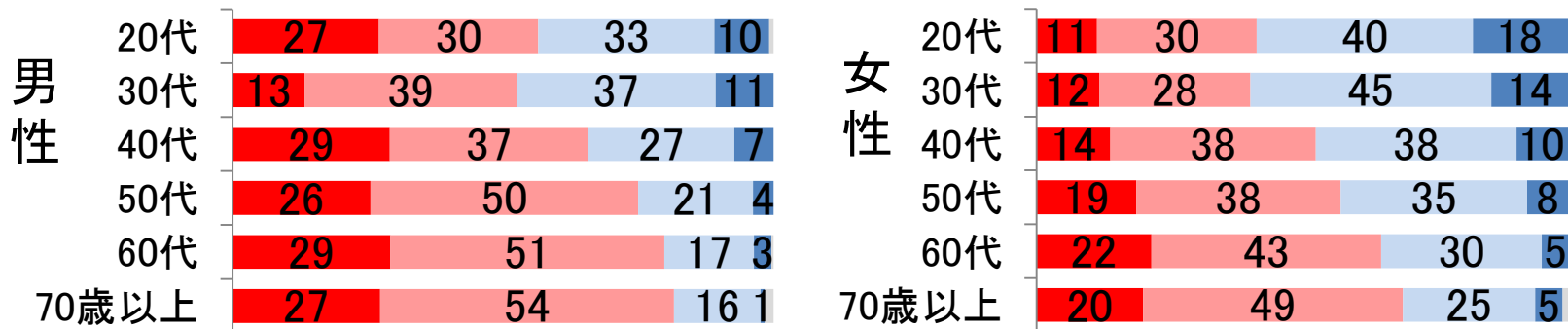
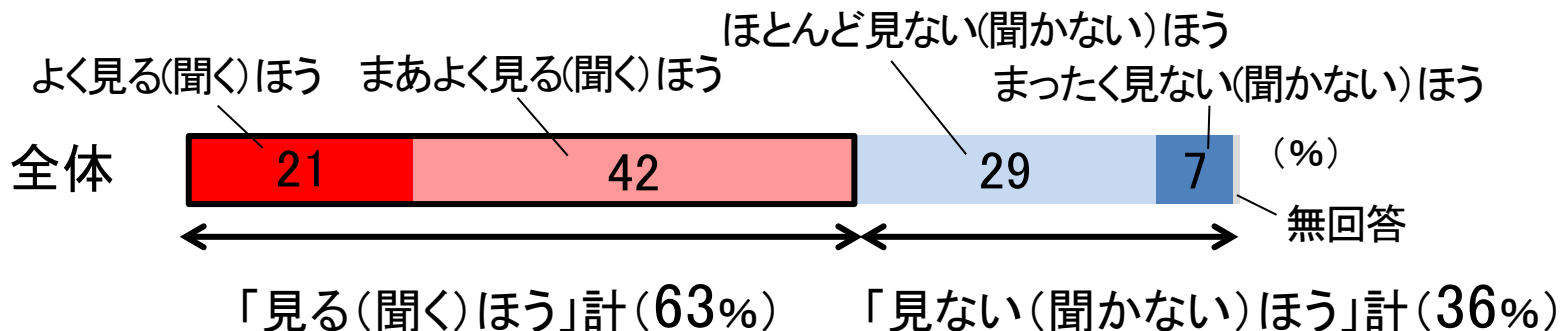
「自然災害」、「介護や子育て環境の整備」に次いで高い

(複数回答)



【スポーツ視聴頻度】

スポーツを「見る(聞く)ほう」が男性50代以上で約8割



主な調査結果 <まとめ>

1. 2016年リオデジャネイロ オリンピック・パラリンピックの見られ方

- ・「ほぼ毎日」視聴した人は、
オリンピック 49%、
パラリンピック 17%
- ・視聴場所は、
「自宅」が 93%、
「通勤・通学の途中」も
男性20～50代で 約15%
- ・インターネットサービス利用者は、
NHK・民放合わせて 16%

2. 2020年東京 オリンピック・パラリンピックに関する意識

- ・東京が開催都市になることを
評価する人は 86%
- ・「関心がある」人は、
オリンピック 81%、パラリンピック 64%
- ・パラリンピックは、「障害者福祉」より
「スポーツ」として扱うべきという人が多い
- ・ボランティアで「参加したいと思う」人は 15%
- ・スポーツを「見る(聞く)ほう」という人は 63%

ご清聴、 ありがとうございました。



本日の内容については、
月刊誌「放送研究と調査」でも
報告する予定です。